



大月山重玄寺

岡山県 井原市

ご挨拶 〜サミットに寄せて〜

井原市長 大舌 勲



今回の開催で二〇回を迎えるこの雪舟サミットが、ここ井原市で開催できますことを大変喜ばしく思います。雪舟サミット構成自治体にとって、本サミットが実りのある交流の場となりますよう願っております。

本サミットは雪舟にちなんだ各構成市の連携により観光面での有意義な取り組みに繋がっています。今回のサミット会議のテーマは「来て見て感じる雪舟の魅力」です。本サミットが各市の観光を促進する契機となれば幸いです。

市の紹介

井原市は岡山県の西南部にある人口約四万人のまちです。

市内の南部を近世山陽道が通り交通の要衝として栄え、また那須与一や北条早雲など歴史的に名高い武将のゆかりの地として多くの史跡があり、文化に親しむことができます。また古くから繊維産業が盛んで、デニム生地工場、ジーンズの縫製や加工工場が集まる一大産地であり、国産デニム発祥の地と言われています。

近代彫刻界の巨匠・平櫛田中の作品を展示する美術館が、市制施行七〇周年である令和五年四月に「井原市立平櫛田中美術館」と改称しリニューアルオープンしました。一〇七歳まで制作を続けた平櫛田中の作品と生涯を堪能していただける美術館となり市内外より多くのお客様にお越しいただいています。

令和六年二月には、平櫛田中の代表作であり、二mを超える木彫の大作「鏡獅子」が井原市に里帰りします。この機会に多くの皆様のお越しをお待ちしています。

雪舟とのつながり

雪舟が没したと伝えられる大月山重玄寺は、嘉吉元年（一四四一年）千畝周竹せんみょうしゅうちくによって開かれた臨済宗仏通寺派の禅寺です。重玄寺は創建以来数度の火災にあつたとされ、昭和三十年の火災では土蔵と鐘楼門を残して全焼しました。現在の寺院は昭和四九年に残った鐘楼門と石門を、山裾の西吉井にしよしに移転し、再建されました。

地元では雪舟が芳井町天神山の重玄寺で没したと伝えられており、『吉備物語』や『東福寺誌』などの近世地誌に「備中の重玄寺で雪舟が没した」と記されています。また平成八年には、重玄寺開山千畝周竹の語録『也足外集やそくげしゅう』の中に、雪舟と千畝和尚に親交があった可能性を示す記述が確認され、井原市と雪舟を結びつける史料として注目されています。天神山の重玄寺跡は、昭和五十五年、芳井町指定の史跡になり、重玄寺跡雪舟終焉の碑が建立されています。



平櫛田中美術館